

株式会社 愛媛朝日テレビ

「民間放送ガバナンス指針」の適用について

公表にあたって

■愛媛朝日テレビ（eat）は、昨年開局 30 周年を迎えました。これまでも報道機関として誠実かつ公正な事業活動を通じて社会に貢献し、健全な組織風土を維持・強化することを目標に、企業の持続可能性を追求してきました。私たちのガバナンスは、社の「信条」「企業理念」を核とした諸々の作業の積み重ねによって生まれ、磨かれています。この度の適用事例公表にあたり、以上のことを踏まえて事例の抽出を進めました。

1. 私たちの「信条」と「企業理念」

「信条」

- ・公正と自由の精神を貫き、地域の発展と文化の向上に尽くし、社会の信頼にこたえます。
- ・報道は常に中立な立場に立ち、真実を正しく迅速に伝えます。
- ・番組は品位と責任を重んじ、夢や希望とともに楽しさと安らぎを与えます。
- ・広告は誇張を排し、創意工夫によって産業の発展に寄与します。

「企業理念」

1. 視聴者にとって、身近なテレビ局をめざします。
2. 視聴者のニーズを意識し、地域から必要とされるテレビ局をめざします。
3. ひとりひとりがセルフマネジメント力を高め、社業の発展に尽くします。
4. 事業活動を通じて、人権が尊重される社会の実現をめざします。

■報道機関すなわち社会の公器として、私たち eat はどうあるべきか。

地域に根差した民放局として、どんな思いを持って活動すべきか。

さまざまな折に社内で語られてきた言葉を整理し、それぞれ「信条」と「企業理念」にまとめました。「民間放送ガバナンス指針」の基本理念とも、多くの部分で重なっています。

2. 私たちの「目的地」 — 最終目標とスローガンの策定

■2019年2月、私たちは『中期活動方針 2019～2023』を打ち立てました。メディア環境が激変する中、eatが放送局であり続けるためには、全社員が同じ目標を共有しなくてはならない—という考えが、策定の背景にありました。そこで掲げられた最終目標が、

ファーストチョイスされる放送局 になること

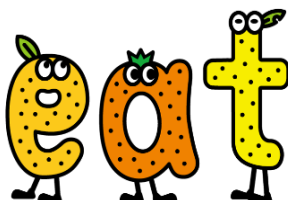
です。これは「普遍のテーマ」であり、また「永遠の課題」でもあります。そのことを踏まえつつ、私たちは目標に近づくべく動き出しました。



■活動方針策定の翌年—2020年4月、eatは開局25周年を迎えました。これを機に私たちは一つのスローガンを掲げました。それが、「**地元を愛す。**」です。

地元を愛す。

eat 5ch



◀“愛媛のTVっ子3人組”
「eat フレンズ」(キャラクター)が、スローガン「地元を愛す。」を盛り立てる。(左よりみかん色の「e」、いよかん色の「a」、レモン色の「t」)

このスローガンは、地元(県民=視聴者)に対するローカル民放局としての意思表示であると同時に、上記の最終目標に近づくために社員全員が心掛けるべき姿勢を表したものとも言えます。シンプルで力強いこの文言は、積極的な広告展開により、県民の間に浸透していきました。そして、社員の間での意識も高まっていきました。

3. 私たちの「現在地」① — 現在の『中期活動方針』

■2024年4月、『中期活動方針 2024～2028』が策定されました。最終目標である「ファーストチョイスされる放送局」の下、スローガン「地元を愛す。」が、中期活動方針の活動理念を兼ねる形になりました。そして、4つの活動方針が打ち立てられました。

① コンテンツの強化 ② 収益力の強化 ③ 組織力の強化 ④ ブランディングの強化

①～④が相互に影響し合うことを念頭に置き、毎年度、社内各部署で「方針」を遂行するための「戦略」が立てられています。そうした活動のうち、2025年度の実績を次に整理しました。

【主な自社制作番組】※レギュラー放送

- 『スーパーJチャンネルえひめ』（毎週月～金曜午後6時15分～7時／金曜のみ～6時55分）
地元が一番愛され、信頼されることを目指すニュース番組。「夕方、愛媛に元気を届ける！」をコンセプトに、生活情報も豊富に提供。2011年10月放送開始。
- 『ちかくナルナル なるちか!』（毎週土曜午前9時30分～10時30分／木曜深夜再放送※）
「えひめの週末」を楽しんでいただくために、県内の季節ごとのお出かけ情報やグルメ、旬の話題を提供。2015年4月放送開始。 ※2026年4月より金曜深夜に移動
- 『らぶちゅちゅ』（毎週木曜深夜0時20分～0時40分／月曜深夜再放送）
音楽情報番組としてスタート、2016年からは素顔のアナウンサーたちが気になる話題や役立つ情報を紹介するスタイルに。1999年4月放送開始～2026年3月終了。
- 『ふるさと応援TV えひめのミカタ』（毎週水曜午後8時54分～9時／移動の場合あり）
県知事をはじめ県内各市町のトップたちが週替わりに登場。地域の魅力や取り組みなど、ふるさとへの想いを込めて率直に語る。2011年4月放送開始。
- 『交通安全ココワン Tube♪』（毎週金曜午後8時54分～9時／移動の場合あり）
交通安全の啓蒙を目的に愛媛県、愛媛県警察本部の特別協力の下、制作。2012年4月放送開始。当番組を元に、幼児向け交通安全教育動画DVDも制作された。
- 『テレビちゃん。』（毎週金曜午後6時55分～7時／移動の場合あり）
テレビのリアルタイム視聴促進と企業の広告効果の可視化を目的にシステムを自社開発。「2020年度民間放送連盟賞」技術部門で優秀賞を受賞。2020年よりレギュラー番組放送中。



▲ 『スーパーJチャンネルえひめ』担当アナ（左より）
村上健太郎、木和田優衣、大沢やすのり、橋本佳子

▶ 『テレビちゃん。』放送中、クイズに参加している様子。テレビとアプリの連動で顧客・視聴者双方のメリットを創出。



▲ 『なるちか!』ロケの一コマ
（川崎秀斗アナ）



【テレメンタリー】

●『さだむの夢は俺の夢～過疎の離島を世界のマンガ島へ～』

(2025年7月19日放送／30分) 世界でも注目される日本のマンガ文化で、過疎の島に夢と希望を!瀬戸内海の離島を舞台に、空き家の壁に人気漫画の名シーンを手書きする“マンガ島”プロジェクトに挑む元自治会長ら二人の男性の姿を追った。

【特別番組】

●『フジ Presents えひめ5時間チャリティーリレーマラソン 2025』

(2025年3月22日開催／4月19日放送／1時間)



eat を代表するスポーツイベント「5時間チャリティーリレーマラソン」の様態を特別番組に仕立てて放送。約300チーム、2,500人の参加者の雄姿を楽しく、分かりやすく、爽やかな感動とともに描いた。

●『ここから始めるたったひとつのレストラン～老舗2代目50歳の挑戦～』

(2025年5月31日放送／1時間) 過疎化が進む久万高原町への移転を決断した、松山の老舗レストラン2代目店主。家族全員で移住し、環境の厳しさに直面しながらも「自分らしい生き方」を求めて進む姿を見つめる。過去の放送を再編集、新たな映像等を加えて仕上げた。

●『第107回全国高校野球選手権 愛媛大会 中継』

(2025年7月11日～7月29日放送)

開局以来、社を挙げて取り組んでいる実況生中継。1回戦から決勝まで、球児たちのひたむきなプレーや、彼らが生み出す感動を伝え続けている。7月29日の決勝は同時間帯1位の視聴率をマーク。また、インターネットでのライブ配信も実施、全国の高校野球ファンからの視聴に応えた。



●『第5回企業対抗チャリティゴルフコンペ』

(2025年9月6日開催／10月18日放送／1時間) 松山シーサイドカントリークラブでの、アマチュアゴルファー160人による熱い戦いの様態をまとめた。タレントのみかんさんとの対決企画もあり、ゴルフの楽しさを詰め込んだ内容になっている。

● 『燃える地元愛！えひめ秋祭り 2025』 (2025年11月30日放送／1時間)



故郷への思いが燃え上がる秋祭り。県内各地の特徴的な祭りにフォーカスし、迫力あるハイライトシーンとともにそれを支える人々の思い、地域の絆や地元愛を描いた。

▲松山道後秋祭りの様子。神輿をぶつけ合う「鉢合わせ」が見どころ、

▶西条祭り。豪華絢爛なだんじり(山車)による「川入り」の様子。



● 『第24回坊っちゃんランランラン』 (2025年12月6日開催／12月27日放送／30分)

3,000人超がエントリー。ハーフに10キロ、車いすに“イチワリ”、そして親子ペアの部も。師走の松山をそれぞれのペースで楽しく、ひたむきに走るランナーたちの姿を伝えた。

● 『30th anniversary 愛媛朝日テレビ Out of KidZania in えひめ ～お仕事ヒミツ調査隊～』

(2025年12月28日放送／1時間半) イベントでは県内26種類の職業体験に延べ881人の子どもたちが挑戦。地域ならではの仕事を通じ、社会のしくみを学んだ。生き生きとした子どもたちの様子とともに、『地元愛』に溢れた仕事の魅力をたっぷり紹介した。(P7【イベント/事業】項目も参照)

● 『J2初挑戦！FC今治さらなる高みへ！～RE:BOOST 拡大版～』

(2025年12月30日放送／30分) J2昇格1年目…目標に掲げたJ1昇格は果たせなかったものの、最後まで昇格プレーオフ争いに絡む充実のシーズンを送ったFC今治。激動の1年を選手目線で振り返るとともに、J1昇格を目指す来季へ熱いエールを送った。

● 『世界が写したパラダイスえひめ2 ～あなたのスマホ、見せてください！～』



(2026年1月4日放送／1時間)

愛媛を訪れた外国人観光客や愛媛在住の外国人に突撃インタビュー。スマホに残るリアルな愛媛を徹底調査。景色や人、文化…彼らを感じる愛媛の魅力を楽しく深掘りした。2025年1月に放送し人気を博した番組の第2弾。

(画像はロケでの一コマ)

● 『愛媛発！ どうもM-1王者のたくろうです！ ～優勝したらふるさとで凱旋漫才するって言ってなかったっけ？SP～』 (2026年2月25日放送／1時間)

ローカル情報番組『なるちか！』に出演し、eatと共に歩んできたお笑いコンビたくろうが、昨年末、漫才師の頂点へ駆け上った！(本年1月5日にはeat本社に凱旋) 売れない時代からずっと隣にいた仲間だからこそ撮れた密着映像の数々とともにM-1王者たくろうの素顔と絆に迫ったドキュメントバラエティ。個人全体視聴率7.5%(同時間帯1位)。



▲ロケでの一コマ／きむらバンドさんの出身地・愛媛県鬼北町の皆さんと)

● 『eat ふるさと CM 大賞えひめ' 26』 (2026年3月29日放送／1時間30分)

県内の市町や住民が30秒のCMを制作し、地元の魅力・想いをPRする「ふるさとCM大賞えひめ」は、2006年から始まった“みんなで楽しめる町おこし”。今回は20市町から40作品が寄せられた。eatスタジオでの収録を経て特別番組として放送、各団体の地元愛を愛媛の視聴者に熱く、楽しく届けた。

【報道】

● 今治市林野火災 (2025年4月1日放送)

2025年3月23日に今治市で大規模な林野火災が発生。eatは迅速に取材、中継にあたった。4月1日には『スーパーJチャンネルえひめ』内で、林野火災に見られる「飛び火」のメカニズムについて専門家の解説を交えながら放送し、県民の強い関心に応えた。

● カムチャツカ半島沖地震に伴う津波 (2025年7月30日発生)

午前8時25分頃(日本時間)、カムチャツカ半島沖でマグニチュード8.7(後に8.8に変更)の地震が発生。太平洋沿岸を中心として、広い範囲に津波警報が出された。eatでは『羽鳥慎一モーニングショー』の枠内から19時まで、特番対応を行った。

● 台風15号 (2025年9月3日発生)

激しい雨を伴う台風であり、発生翌日の4日夕方から5日朝にかけて線状降水帯が発生する恐れがあったことから、宇和島支局を中心に、安全に配慮しながら取材を進めた。夕方ニュースにおいては、リアルタイムで情報を伝えた。

● 衆議院選挙 (2026年2月8日)

『報道ステーション』内で、10分程度のローカル差替え放送を2回行った。また、24時10分から30分、選挙特番『衆院選えひめ 2026』の放送を行った。(なお、愛媛では全3選挙区で自民党が議席を獲得した)

【イベント/事業】

● 『山陽物産 Presents 第9回愛媛県小学生ティーボール選手権大会』

(2025年5月11日開催) 止まったボールを打つことから、投手のいない野球、ソフトボールとも言われるティーボール。伊予市しおさい公園で、小学1年生～4年生で構成する21チームが熱い戦いを繰り広げた。優勝チームは9月、全国大会(ペルーナドーム)に出場。

● 『谷川俊太郎 絵本★百貨展』(2025年7月5日～9月1日開催)

愛媛県美術館にて開催。全体入場者数は22,634人と全国の巡回展を通して過去最多となった。スポット告知に加え、TikTokの配信、自社番組での取り上げ、アナウンサーによる読み聞かせ会の実施と、複合的かつ細やかな広報戦略が奏功した。

● 『ヨシタケシンスケ展かもしれない』(2025年9月20日～11月24日開催)

愛媛県歴史文化博物館(西予市)にて開催。全体入場者数は37,332人で、これまで同博物館で開催された全ての企画展の中で最大の数値。15年ぶりの記録更新となった。

● 『Out of KidZania in えひめ』(2025年11月1日～11月3日開催)

開局30周年記念事業の核として企画。4月26日の新居浜を皮切りに、四国中央、伊予、八幡浜と4市でのミニイベントを経て、11月1日より3日間、松前町「エミフルMASAKI」にてメインイベントを開催した。



◆ ブース出展した26業種延べ124コマに対し、小・中学生延べ881人が就業体験をした。楽しく“働く”中で、「地元を愛す。」を掲げるeatの姿勢を実感してもらえた。



● 『サンリオ展 ニッポンのクワイ文化60年史』

(2025年12月6日～2026年1月12日開催) あかがねミュージアム(新居浜市)にて開催。eatは広報担当として実行委員会に入る形となった。会期は約30日、その最終日に目標動員数の3万人を超え、31,113人をマークした。(主催:サンリオ展新居浜実行委員会)

● 『坊っちゃんスタジアム 開場25周年 記念イベント』(2025年12月13日開催)

高校野球をはじめ、地域のアマスポーツの拠点として、またプロ野球公式戦の会場としても親しまれてきた坊っちゃんスタジアム。その開場25周年を記念してイベントを開催。2023年WBC日本代表チームの監督であった栗山英樹さんを招いての講演会、普段入れないグラウンドで遊ぶ「キッズプログラム」や愛媛県高校野球現役監督による野球教室などを実施した。

- 『愛媛県×JA 共済 Presents 春まるごと！愛顔の元気あそびフェス in えひめこどもの城』
(2026年3月20日開催) えひめこどもの城の「くわがたのステージ」に新たに設置された屋根と新たに導入されたカートのお披露目も兼ねて開催。プリキュアショーやサイクルイベントに加え、JA グルメブースも展開。高校生以下は各種アトラクションを無料で開放するなど、アクティブな春の一日を演出した。
- 『第8回 愛ある鬼嫁コンテスト』(2026年3月29日開催)
全国の自治体で唯一「鬼」の字がつく鬼北町(道の駅日吉夢産地)で、家族愛をテーマに一言を叫ぶ大声コンテストを開催。笑いと感動に溢れたユニークな町づくりイベントとして人気を博している。
- ★ 『フジ Presents えひめ5時間チャリティーリレーマラソン 2026』(5月16日開催)
➡ 2023年から毎年3月に開催されてきたが、2026年は日程を3月から5月に変更、会場を「坊っちゃんスタジアム」に移して開催された。

【その他 社会・地域に対する取り組み】

● 「SDGメディア・コンパクト」加盟

国連が世界の報道機関に協力を呼び掛ける「SDGメディア・コンパクト」に加盟(2022年9月)。SDGsの17の目標を踏まえ、情報発信や課題解決に向けた取り組みを進めている。

● 「働くを知る。シゴトバ」



県内の高校に電子看板を設置し、地元企業の魅力を高校生に映像で伝える事業(2021年スタート)。「地元を愛す。」放送局として、地元企業の採用を促進し、地域社会に貢献している。現在は新居浜、西条、今治の計16校で39社の映像を放送中。



▲電子看板を見る生徒たち(左)・授業時間を使つてのワークショップ(右)

● 「学生が聞きたい ジモト企業100のコト」

地元の優良企業を学生に知ってもらうため、愛媛大学と共同で企画。企業の担当者が大学で「NGなし！本音を聞く講義」を行う。2025年度は朝日共販(株)・(株)大石工作所・マルトモ(株)・(株)新来島どっく・オオノ開発(株)・(株)イーエーシーの6社が参画。参加した生徒には、準必須項目の単位が付与される。

● 会社見学/職場体験

県内の小・中学校を対象に実施。ニュース取材から編集、放送に至るまでの流れを中心に、テレビ局の仕事を楽しく、分かりやすくレクチャーしている。2025年度には小・中学合わせて3校+2グループが参加した。

● TikTok ～地元を愛す～愛媛の背中男(ダンス動画)



2021年にスタートし、現在フォロワー数は220万人超を誇っている。
高校のダンス部を中心にさまざまな団体とコラボを実施して人気を博している。
2025年度もコラボ実績多数。



◆踊る技術スタッフ「愛媛の背中男」(上)
高校生とのコラボの様子(右)

●「地元を愛す。アイスクリン」販売



流通企業(株)フジ、アイスクリーム商社 南商事(株)と共同で「アイスクリン」(氷菓)を開発。
eatのスローガン「地元を愛す。」を商品名として、
2022年にブラッドオレンジ味を、翌2023年にキウイフルーツ味を、それぞれコーンタイプで発売した。
2025年7月には食べやすいカップタイプにリニューアル。県内の流通店(フジ、マルナカ、マックスバリュ)で販売し、好評を博した。

4. 私たちの「現在地」② — 人権意識の練磨

■民放連会員社における人権侵害事案を受け、民放各社は自らの人権意識を厳しく見つめ直すことになりました。(⇒民放連「人権に関する基本姿勢」を改定)
こうした情勢を鑑み、私たち eat も会社全体と社員個々の人権意識を再考し、以下の通り対処しました。

① 社内ヒアリングを実施

eat 女性社員をはじめとして、eat で働く全ての女性スタッフを対象に、過去～現在までに、社外の関係者から不適切な行為を受けたことがあるかどうか、個別にヒアリングを行った。
※ヒアリングは2025年1月31日～3月17日にかけて実施。総務局の女性社員を中心に男女社員が担当した。

⇒結果、不適切な行為がなかったことを確認した。

② 会社としての方針を制定

上記①のヒアリング結果を踏まえ、下記の方針を制定した。

1. 愛媛朝日テレビでは、女性社員に対して、当該女性社員の業務とは直接関係がない、もしくは関係が薄いと判断される宴席などに参加を求めることはしません。
2. 他部署の女性社員に宴席などへの参加を求める場合は、今後担当の部長から当該女性社員の直属の部長に対して行うこととします。他部署の社員が個々の女性社員に直接参加を依頼することはありません。

③ eat 企業理念に、人権に関する項目を追加

それまで3項目から成っていた企業理念に下記を加え、4項目とした。(P1 参照)

「事業活動を通じて、人権が尊重される社会の実現を目指します」

④ 人権に関する指針を制定

上記③を補足する形で、人権尊重に対する eat の姿勢をより具体的に示した。

1. 人権の尊重

私たちは、人種・民族、性、年齢、国籍、信条、宗教、性的指向、性自認、障がいなどを理由とするいかなる差別も認めません。

個人としての尊厳や人格を不当に傷つけるハラスメントやいじめなど、人権を侵害するあらゆる行為を認めません。

長時間労働や健康を害する働き方を強制することを認めず、労働者の権利を守ります。

2. 人権侵害の防止

私たちは、自らの事業活動において人権を侵害することがないように配慮し、役員・従業員に対する教育・研修を行います。

3. メディアとしての社会的責任

私たちは、地元の方々に必要な情報を伝えるメディアとして、報道をはじめ様々な事業活動を通じて人権が尊重される社会の実現をめざします。

【補足】

① (ヒアリング)

→ 2025年2月5日の取締役会にて途中経過を報告。また、結果として「不適切な行為はなかった」ことを、同年3月27日の幹部会および28日の取締役会にて報告した。

②(社の方針の制定)・③(企業理念の追加)・④(指針の制定)

→ 2025年3月27日の幹部会にて社内に周知、翌28日の取締役会にて報告した。

■社員が生き生きと、自尊心を持って働ける会社であること。その環境づくりの一環として、社員の知識・理解を深めるための各種講習・研修を行いました。また、ハラスメントの防止・解消に関しては社内体制を整理、改めて社員に周知した上で、運用を継続しています。

●「介護・育児休業法講習会」（2025年4月）

40歳以上の社員（＝介護）、3歳までの子どもを養育中の社員（＝育児）を対象に実施。社員がそれぞれのライフステージに沿って活躍できるよう、知っておくべき事柄を共有した。

●「コンプライアンス（ハラスメント）研修」（2026年1月）

昨今の民放業界を取り巻く環境を踏まえ、eat社員および派遣社員（一部を除く）、放送技術社社員を対象に実施。eat監査役の弁護士を講師に招き、法律家の立場から分かりやすく講義をしてもらった。

●「アンガーマネジメント講座」（2026年2月）

外部コンサルティング会社より講師を招き、社員（希望者）を対象に実施。アンガーマネジメント（怒りの感情と上手に付き合うスキル）に基づいた「伝え方」を学ぶことにより、ハラスメントの防止や良好な社内コミュニケーションに繋げる。

●「内部相談窓口」の運用（継続して運用中）

「内部通報規則」の制定（2006年5月）に伴い「内部相談窓口」を設置、以来運用を続けてきた。2024年10月末には社長名による「ハラスメントは許しません!!」文書を社内通知。上述の取り組みと相まって、より安心して相談できる環境の醸成が進んできている。

5. 私たちの「次なる一歩」 — 働く場所の見直し

■社員同士、お互いを尊重して働ける、風通しの良い企業風土を醸成するには、まず個々の業務量や効率、職場に対して抱えている心情等を正確に把握する必要があります。折しもeatでは、既存のテレビ放送事業収入の落ち込み幅を縮小しつつ、新規事業収入を拡大していく方針—つまり、既存と新規の「両利き」で経済活動にあたるという方針が新たに策定されました。限られた人数でパフォーマンスを最大限に発揮するためには、やはり風通しの良い、生き生きとした職場であることが必須です。これらのことを踏まえ、私たちは自らが働く場所の見直しに取り組みました。

●業務の棚卸しによる業務効率化（2025年1月～継続中）

2025年1月末より、社内各部署において、抱えている業務の内容・範囲や量を点検。その結果を元に改善策を検討、随時、実行に移している。業務の効率化で作業負荷を軽減することにより、社員個々の「心」と「時間」の余裕を創出する。

- 「エンゲージメント調査」(2025年9～10月)／「同・調査結果報告」(2025年10～11月)
組織の在り方を改善するため、全社員を対象に「会社や仕事に対してどう感じているか」アンケート調査を実施。回答で得た情報を分析して現状と課題を可視化、社内で共有した。それらは今後の施策に活かされる。(調査、分析～報告はコンサルティング会社に委託)
- 組織構造の最適化・明確化(2026年2月～)
ライン部長を中心とした新しい組織づくりを進めている。職位ごとの職責を明確化し、合理的・効率的な業務の推進を図ることで、生き生きとした職場環境の実現を目指す。社員個々のコンプライアンス意識の向上も期待される。
- オフィスレイアウト、部署配置の変更(2026年1月～3月)
これまで「電源棟1階」に配置されていた本社営業局を「本館」内に移動、編成局と同一フロアに配置した。この社内レイアウト変更により、事業の推進に欠かせないコミュニケーションの活性化が期待される。
- 評価と報酬制度の見直し(2026年2月～)
人事制度改革の検討をスタート。「誰が」評価し、「どのように」フィードバックするかを整理している。併せて3月には管理職と評価者を対象に研修も実施した。社員個々の成長に繋がる納得感・実効性の高い評価の在り方を探求、実践していく。

【補足】

- 「組織構造の最適化・明確化」および「評価と報酬制度の見直し」(一部)
→ 2025年2月16日の全社集會にて全社員に説明、周知を図った。

【その他の取り組み】※社員個々のスキルアップ

- 「企画書の書き方」&「プレゼンテーションのコツ」講座(2025年9月)
元朝日放送テレビの方を講師に招き、主に営業系の社員を対象に開催。ビジネスに不可欠な「企画書」「プレゼンテーション」に関して、相手の心を掴むことを主眼に、実践的な手法の講義が行われた。

6. 私たちの「ガバナンス」— eat の経営体制から

- ここまで、時系列にて、私たち eat が積み重ねてきたガバナンス施策について記してきました。これらの施策が適正に、効果的に運用されるには、社内の状態が色々な意味で“健康”である必要があります。そこで重要になるのが、業務執行を監督する「取締役会」、そして放送番組の適性を図る「番組審議会」の在り方です。次頁より、これらの構成を含めた eat の経営体制等について記します。

愛媛朝日テレビ 経営情報

<p>企業理念</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 視聴者にとって、身近なテレビ局をめざします。 2. 視聴者のニーズを意識し、地域から必要とされるテレビ局をめざします。 3. ひとりひとりがセルフマネジメント力を高め、社業の発展に尽くします。 4. 事業活動を通じて、人権が尊重される社会の実現をめざします。
<p>資本構成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資本金：1億円 ・ 発行済株式総数：80,000株
<p>主要株主</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1/10 を超える議決権を有する者とその者の議決権比率 <ol style="list-style-type: none"> ① 朝日放送グループホールディングス(株)：15.4% ② (株)テレビ朝日ホールディングス：14.1% ③ (株)朝日新聞社：12.5% ・ 株主総数：42名
<p>役員構成</p> <p>※2026年 6月22日現在</p>	<p>代表取締役社長 小林 正太郎</p> <p>常務取締役 稲井 良介</p> <p>取締役 宮崎 俊信</p> <p>取締役 今枝 義浩</p> <p>【社外/非常勤】</p> <p>取締役 日野 諄二 日野開発(株) 取締役相談役</p> <p>取締役 山本 宗宏 山本汽船(株) 代表取締役</p> <p>取締役 尾崎 英雄 (株)フジ 相談役</p> <p>取締役 関 宏孝 セキ(株) 代表取締役社長</p> <p>取締役 清水 一郎 (株)伊予鉄グループ 代表取締役社長</p> <p>取締役 豊田 将光 (株)愛媛銀行 代表取締役副頭取</p> <p>取締役 城戸 克郎 ヤマキ(株) 取締役副社長</p> <p>取締役 加藤 令史 (株)愛媛新聞社 代表取締役社長</p> <p>取締役 明関 眸 マルトモ(株) 代表取締役社長</p> <p>取締役 八石 玉秀 愛媛信用金庫 非常勤理事 相談役</p> <p>取締役 木原 光一 (株)伊予銀行 常務取締役</p> <p>取締役 新妻 大輔 朝日放送グループホールディングス(株) 経営戦略局長</p> <p>取締役 山崎 浩史 大王製紙(株) 代表取締役副社長</p> <p>取締役 高岡 晃仁 (公財)愛媛県スポーツ協会 専務理事事務局長</p> <p>取締役 柳谷 政人 (株)朝日新聞社 社長室ネットワーク政策チー ム 専任部長</p>
<p>※次頁に続く</p>	

役員構成 ※前頁より続く	監査役 塚本 秀和 公認会計士 朝日税理士法人岡山丸亀事務所 代表社員 監査役 淡川 佐保子 弁護士 かちまち法律事務所																										
役員数 (2026年 6月22日現在)	21人 男19人(91%)、女2人(9%)																										
職員数 (2026年 4月1日現在)	70人 男50人(71%)、女20人(29%)																										
番組審議会委員 ※2026年 4月1日現在	委員長 牛山 眞貴子(愛媛大学名誉教授) 副委員長 野村 由紀(主婦) 委員 石光 真理(弁護士) 委員 廣島 敦史(朝日新聞松山総局長) 委員 井川 加奈子(主婦) 委員 山之内 圭太(会社社長) 委員 阪本 裕文(松山大学情報学部教授)																										
自社批評番組	・番組名：『はい！eat です』 ・放送日時：番組審議会翌月・第3日曜午前3時45分～3時50分																										
財務情報 ※『日本民間放送年鑑』 に掲載しているBSと PLの大科目を記載。	<p>【貸借対照表】 (2026年3月31日現在)</p> <p style="text-align: right;">(単位：千円)</p> <p>《資産の部》</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">流動資産</td> <td style="text-align: right;">2,016,752</td> </tr> <tr> <td>固定資産</td> <td style="text-align: right;">5,141,894</td> </tr> <tr> <td>資産合計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px dotted black;">7,158,646</td> </tr> </table> <p>《負債の部》</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">流動負債</td> <td style="text-align: right;">388,232</td> </tr> <tr> <td>固定負債</td> <td style="text-align: right;">377,738</td> </tr> <tr> <td>負債合計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px dotted black;">765,970</td> </tr> </table> <p>《純資産の部》</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">株主資本</td> <td style="text-align: right;">6,458,985</td> </tr> <tr> <td> 資本金</td> <td style="text-align: right;">100,000</td> </tr> <tr> <td> 資本剰余金</td> <td style="text-align: right;">3,900,000</td> </tr> <tr> <td> 利益剰余金</td> <td style="text-align: right;">2,458,985</td> </tr> <tr> <td>評価・換算差額等</td> <td style="text-align: right;">△66,309</td> </tr> <tr> <td>純資産合計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px dotted black;">6,392,676</td> </tr> <tr> <td>負債・純資産合計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px dotted black;">7,158,646</td> </tr> </table>	流動資産	2,016,752	固定資産	5,141,894	資産合計	7,158,646	流動負債	388,232	固定負債	377,738	負債合計	765,970	株主資本	6,458,985	資本金	100,000	資本剰余金	3,900,000	利益剰余金	2,458,985	評価・換算差額等	△66,309	純資産合計	6,392,676	負債・純資産合計	7,158,646
流動資産	2,016,752																										
固定資産	5,141,894																										
資産合計	7,158,646																										
流動負債	388,232																										
固定負債	377,738																										
負債合計	765,970																										
株主資本	6,458,985																										
資本金	100,000																										
資本剰余金	3,900,000																										
利益剰余金	2,458,985																										
評価・換算差額等	△66,309																										
純資産合計	6,392,676																										
負債・純資産合計	7,158,646																										
※次頁に続く																											

財務情報 ※前頁より続く	【損益計算書】	
	(自 2025 年 4 月 1 日 至 2026 年 3 月 31 日)	(単位：千円)
	売 上 高	3,441,196
	営 業 利 益	86,671
	経 常 利 益	134,922
	税引前当期純利益	120,157
	当 期 純 利 益	72,506

【補足】

● 取締役会の実効性を確保するための取り組みや体制

① 会計監査人の廃止および監査役設置会社への移行について

2021 年の減資で会社法上「大会社」の枠組みから外れたことにより、会計監査人を廃止とすること、監査役会設置会社から監査役設置会社に移行することを取締役会にて報告。新たに監査役に就任する 2 名の方を紹介した。会計監査については公認会計士の方、業務監査については弁護士の方に依頼することとし、ガバナンスの維持・向上を期する。

→以上、「第 30 期定時株主総会」(2024 年 6 月 24 日)にて承認

② 「監査役ミーティング」の実施について

監査役を外部に移行したことに伴い、eat 役員(3 名)および総務局社員(3 名)、経営戦略局社員(2 名)との定期的なミーティング(原則月 1 回)を実施することとした。

主な内容は、常務会議事の説明や取締役会の補足説明等。監査役からの質疑に答えると共に eat からの確認、質疑も行い、会社業務の現状を共有、改善に繋げている。

● その他の施策

・ 社外相談窓口の設置

社内で人的な問題を抱えてしまった従業員のために、従前より「内部相談窓口」を設置、運用しているが、通報・相談によって自身が不利益を被ることを恐れ、行動をためらうケースも考えられる。そこで社内事情に左右されず安心して話ができるよう、新たに「社外相談窓口」を設置した。窓口は法律事務所が担当し、2026 年 6 月 1 日より運用を開始している。

7. より一層信頼される会社へ ― 宣言に代えて

今年の初めに、eat をはじめ民間放送の置かれている今の状況についてお話しします。民放業界は去年、人権意識やガバナンスが問われました。令和の時代に何をやっているのか、普段ニュースで他社のガバナンス態勢を批判しているのに自分のところはどうなんだ。そういった声が広がり、民放への信頼は傷つきました。

私たちは「地元を愛す。」を活動理念としています。地元の皆さんにニュースや情報、娯楽を伝えるだけでなく、適切なガバナンスを確保していることを示して信頼を得ていく必要があります。信頼なくして成長を続けていくことはできません。

私たちは昨年、人権に関する指針をまとめました。人権を侵害するあらゆる行為を認めず、役員・従業員に対する研修を行い、事業活動を通じて人権が尊重される社会の実現を目指すとしています。また、今年からは民間放送ガバナンス指針の適用状況を点検、公表することになっています。

繰り返しますが、私たちの事業活動は、視聴者やクライアントの信頼が基本になっています。ニュース番組、情報番組、娯楽番組など地上波や配信のコンテンツ、様々なイベントも、一つ一つをきちんと届けることで信頼を得ることができます。信頼を得ることで事業を継続していくことができるのです。そのことをまず押さえてください。

2026年1月5日 社長年頭挨拶より／井上 隆史 代表取締役社長（当時）

以上